

登記多角点セミナー

のご案内

入退場無料・出入自由

ジオスペーシャルフェア 2023

7月25日(火)大宮ソニックシティ第一展示場



測量・建設のビジネスチャンス2023

課題と挑戦、そして未来へ



日時：2023年7月25日（火） 13:00～17:00

会場：大宮ソニックシティ第一展示場

主催：トリブルパートナーズ埼玉(株)

協賛：株式会社 ニコン・トリブル

:TPホールディングス株式会社

ご来場者プレゼント



ひんやり涼感
クールタオルボトル
ご来場者様全員プレゼント



会場アクセス方法

昨年5月に日本土地家屋調査士連合会より【ネットワーク型RTK法による単点観測法に基づき行う登記多角点測量マニュアル】が策定されました。本セミナーではこのマニュアルの解説を行うとともに、実践的なGNSSを用いた登記多角点作成の手法をご紹介します。

Trimble SKY Controller 登記多角点観測オプション

Trimble SKY Controller 登記多角点観測オプション

1 特別なコマンド「登記多角点観測」

オプションに対応の SKY Controller ではアプリ選択画面に、「登記多角点観測」メニューを表示。日調連マニュアルにおける作業は、与点座標の登録からTSとの較差チェック、データ出力までこのメニューの中で完結します。

2 作業手順通りに並んだメニュー

登記多角点観測オプションは上から順番にすることでマニュアルに即した観測が可能です。

- 与点登録：与点座標を登録する
- 与点観測：与点をVRSで観測し、成果値とのチェックを行う
- 与点整合補正計算：与点較差が範囲外の場合の補正計算
- 測点観測：登記多角点との観測
- 点検観測：登記多角点の点検測量
- TS較差チェック：登記多角点間距離のTSによる点検
- データ出力：帳票用XMLファイルの出力

3「一連の流れ」で作業を行う

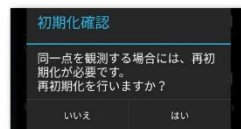
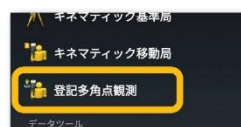
与点登録では座標データの整合既知点タブが自動で開き、そのまま手入力やSIMAデータの取り込みができ、観測点で続けて2回観測を行う時も再初期化を促すメッセージが出るなど、画面を行ったり来たりすることなく、作業が完結します。

4 その場で較差チェックが可能

2回観測の較差、与点成果値との較差、点検測量における本観測との較差などは、観測完了時に結果をポップアップ表示。「OK」と「NG」が色でも表されるので識別しやすくなっています。

5 特別な帳票を作成

観測後のデータはXML形式で出力し、PCでWord形式の帳票を作成します。PC用帳票作成プログラムは登記多角点観測オプションについてるので、そのためのソフトウェアを購入する必要がありません。



座標求積図 (S-1/500)

登記多角点観測を優しくガイドする画面構成

画面メニューの手順に沿って

「誰でも」「カンタンに」「確実に」

登記多角点観測とTS点間チェック

展示会の新型コロナウイルス
感染防止への対応について



日本展示会協会「展示会業界におけるCOVID-19感染拡大予防ガイドライン」および展示会場が定める「展示会における新型コロナウイルス感染防止のための対応指針」に基づき、ご参加される皆様の安全を確保するため、感染対策に関する取り組みを定め運用してまいります。

	発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、息苦しさ、味覚・嗅覚異常などの自覚症状のある方等		展示場内でのマスクの着用にご協力をお願いします。
	事前のお申込み制と各会場最大収容人数の50%までに制限		非接触体温計等による体温測定
	消毒液の会場入り口他への設置		会場は密閉せず常に換気を行う
	ソーシャルディスタンスの徹底		定期的な巡回清掃・消毒

お問い合わせ

トリブルパートナーズ埼玉 株式会社

〒331-0047

埼玉県さいたま市西区指扇1022-1

TEL:048-729-4511

FAX:048-729-4512

Trimble SX12



高精度ワンマンTSと長距離高精度3Dレーザースキャナー 一体型、地上型レーザースキャナー

Trimble X7



自動合成・自動整準機能搭載。新世代型地上型レーザースキャナー

Trimble X9



Trimbleのレーザースキャニング技術を結集し、X7から更に性能を向上させた地上型レーザースキャナー

Trimble X12



クラス最高精度・高速・高解像度画像取得のハイエンド型地上型レーザースキャナー

Trimble TCU5/FZ-N1



Trimble S5/S7 搭載マルチデバイス対応・スマートフォンコントローラーで簡易ワンマンが可能

Trimble R12i GNSS



IMU(慣性計測装置) 搭載傾いた状態でも姿勢を自動検知し石突の座標値を自動算出。整準時間を短縮し、作業効率化

Trimble R4s GNSS



アンテナ一体型2周波GNSS受信機。汎用的なオールラウンドGNSS

TPホールディングス 特設コーナー

SKY-Mapper Mark II



レーザ測量・写真測量に対応。ボディは高耐久性のマグネシウム合金を採用した国産産業用ドローン

LiAir X3/X3C



SKY-Mapperに搭載可能な超小型・軽量・低価格のUAV搭載用LiDARユニット。レーザー光が草木の隙間を通り抜けその下の地面にあたることで、地形の測量が可能

LiBackPack DGC50H



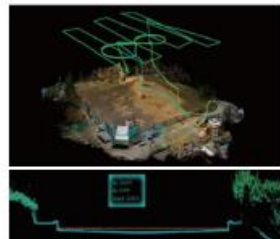
バックパック型地上LiDAR、背負って歩くだけでリアルタイム点群合成・周辺の建造物の構造計測も可能な3DマッピングLiDAR。

LiGrip 120H



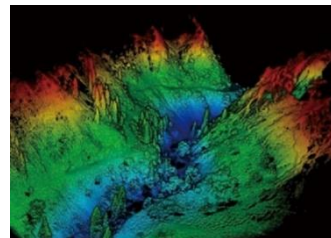
ハンディ型地上LiDAR、もって歩くだけで3Dマッピング可能なLiDAR。コンパクトなボディで多彩な操作性を実現。バックパック仕様ではGNSSも対応可能

LiGeoreference



LiDARなどの生データを整合の取れた解析処理で点群データにするソフト

LiDAR360



LiDARデータの解析処理や空中または地上から取得した森林の計測データから単木抽出、胸高直径、樹木高等自動計算機能を標準で搭載する点群処理ソフト

特別講演 (13:30~14:10)

「自然災害時の点群データ活用」
～東日本大震災・熱海土石流災害を例として～

東北大学災害科学国際研究所特任教授
中央大学機構教授
大阪公立大学客員准教授
株式会社STORY代表取締役

原口 強 氏



今や毎年、日本全国まで経験したことの無いような大きな災害が発生して、尊い命や貴重な財産が失われています。当講演では、数々の災害現場で災害調査や原因分析を行ってこられた原口教授をお招きし、災害発生時におけるオープンデータの活用とドローンによる3D点群データを活用した地形画像診断について、最前線で活躍されているUAVLiDARやLiDARSLAMの実例紹介を交え、地域に密着されている測量業界の方々が取り組むべき課題に関する特別講演を開催いたします。

セミナー

地形情報のDX化「自然災害時の点群データ活用」
～東日本大震災・熱海土石流災害を例として～

13:30~14:10

1,原口教授の活動紹介 2,熱海土石流の事例 3,地形画像診断の提案 4,地形のデジタル化、オープンデータ化の状況 5,オープンデータを用いたITMS(情報透過型地図システム) 6,地形測量から地形画像診断へ 7,最前線で活用されているUAV LiDARやLiDAR SLAMの事例紹介

LiDAR SLAM システムの解説

14:30~15:10

地上型レーザースキャナーご導入の測量会社様は多くいらっしゃると思いますが、LiDAR SLAMは今注目されている技術です。このシステムは河川や崩落現場、森林計測など測量会社においても徐々に導入が進んでいます。様々な測量会社の要望により現場計測をされてきた技術部長にLiDAR SLAMの解説や計測事例を紹介させていただきます。

業務用途に適した3Dシステムの紹介

15:30~16:00

今やiPhoneにもLiDARが搭載されていたり、様々な3D機種がラインナップされています。また、地上型レーザースキャナーはIMU搭載が主流になりつつあります。そこで、iPhoneによる補備測量の事例や、各機種により計測した事例を解説いたします。

■ブース特別セミナー(土地家屋調査士様向け)

日調連マニュアル対応 skycontroller登記多角点観測オプション解説

常設

昨年5月に日本土地家屋調査士連合会より[ネットワーク型RTK法による単点観測法に基づき行う登記多角点測量マニュアル]が策定されました。本セミナーではこのマニュアルの解説を行うとともに、実践的なGNSSを用いた登記多角点作成の手法をご紹介します。

※セミナーの内容や時間につきましては、変更する可能性がありますので、詳細はご来場当日に会場でご確認の程、お願い申し上げます。コロナ感染防止のため、座席は間隔をあけて配置する関係上、お席には限りがあります。